

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物

(10) 貝化石の密集層を含む境川遊水地 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 48

標本名 貝化石の密集層を含む境川遊水地 露頭剥ぎ取り標本

大きさ（分割枚数） 幅 3 m, 高さ 1.6 m（横に 3 枚）

重量 展示中のため不明

形状・展示・収納状況 厚い絨毯状、1 点ずつガラスケース内に固定した状態で常設展示（神奈川展示室）

採集地 神奈川県横浜市泉区下飯田町

緯度・経度 N35°23'33.5", E139°28'43.6"

標高 12 m

露頭の種別と現状 境川遊水地（下田遊水地）工事による人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 向き不明、傾斜約 40°

走向・傾斜 ほぼ水平で、北に 1 度以下で傾斜

堆積物の種別 貝殻を含む砂泥層（海成層）

年代 更新世（約 12.5 万年前）、藤沢泥層（下末吉層相当）：成瀬（1952）、田口ほか（2007）

採集作業者 森山哲和（考古造形研究所）

採集立会い者 藤沢土木事務所、田口公則

採集日 2009 年 3 月 9 日

その他 境川遊水地公園の情報センターの展示整備を目的に、藤沢土木事務所により地層剥ぎ取りが実施された。その一部の標本が生命の星・地球博物館に移管された。

関連文献等

小荒井千人・馬場勝良（2010）選択的に採集された貝化石による古環境推定の評価 — 神奈川県境川遊水地公園内で採集した第四系貝化石を例として．地学教育, (63): 149-162.

小沢広和・中井静子・中尾有利子・小島仁志（2016）教育ノート：第四紀の貝化石を用いた古環境解析の実習 — 神奈川県立境川遊水地公園産の後期更新世化石群による例 —．日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要, (51): 285-297.

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・「生命の星・地球」博物館古生物ボランティアグループ（2007）横浜市南西部の上部更新統から見出された熱帯種タイワンシラトリ化石．神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (36): 33-38.

成瀬 洋（1952）相模野台地東縁部の地質．地質学雑誌, (58): 423-432.

解説 貝化石密集層を含む砂泥層の剥ぎ取り標本である。この密集層の層準は、田口ほか（2007）の貝化石密集層 B（Shell bed B）におおよそ相当する。剥ぎ取り標本の密集層には、カガミガイ、ウラカガミ、ゴイサギ、オオモノハナ、バイ、ツメタガイ、ヤカドツノガイなどを含む。また、剥ぎ取り下部には、合弁のカガミガイが垂直方向の向きで保存された個体も見つかる。本層相当層にあたる産出貝化石は小荒井・馬場（2010）や小沢（2016）のリストがある。

記録者 田口公則

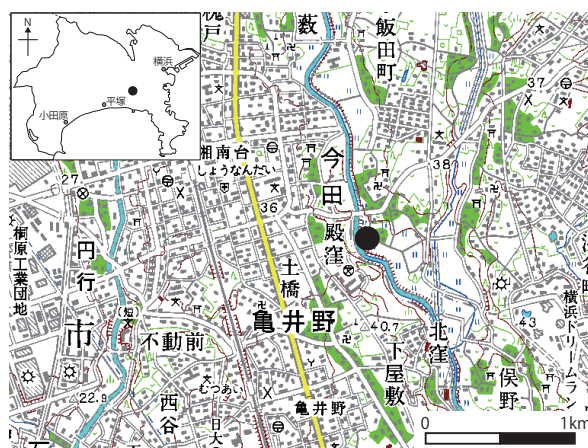


図 1c-10-1. 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）。



図 1c-10-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭と作業の様子。



図 1c-10-3. 剥ぎ取り標本の展示の様子（神奈川展示室）。



図 10-4. 剥ぎ取り標本の写真，右の黒枠内は，各標本を層理面に対して平行に撮影したもの（p.56-57 参照）。

標本番号 KPM-NP 55, 56, 57-1, 2, 3

標本名 貝化石の密集層を含む境川遊水地 露頭剥ぎ取り標本

大きさ (KPM-NP57 は 3 枚セット)

KPM-NP 55: 幅 2.0 m, 高さ 2.35 m

KPM-NP 56: 幅 1.1 m, 高さ 2.5 m

KPM-NP 57-1: 幅 2.1 m, 高さ 2.9 m

KPM-NP 57-2: 幅 0.87 m, 高さ 1.34 m

KPM-NP 57-3: 幅 0.9 m, 高さ 1.1 m

重量 KPM-NP 55: 31.1 kg, KPM-NP 56: 16.1 kg

KPM-NP 57-1: 18.1 kg, 57-2: 3.3 kg, 57-3: 3.6 kg

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状、それぞれ短辺を軸に巻いて大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県横浜市泉区下飯田町

緯度・経度

KPM-NP 55, 56: N35°23'25.9", E139°28'58.5"

KPM-NP 57: N35°23'27.3", E139°28'57.2"

標高 12 ~ 16 m (NP57-1 の裏には GL13.00 の記載あり)

露頭の種別と現状 境川遊水地 (下田遊水地) 工事による人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 不明

走向・傾斜 ほぼ水平層

堆積物の種別 砂泥層、礫層 (海成 ~ 陸成層)

年代 約 13 万年前: 藤沢泥層 (下末吉相当層)、俣野礫層 (田口ほか, 2007)

採集作業 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 藤沢土木事務所、田口公則、松島義章

採集日 2005 年 11 月 22 日

その他 境川遊水地公園の情報センターの展示整備を目的に、藤沢土木事務所により地層剥ぎ取りが実施された。展示利用以外の端切れの一部。

関連文献等

田口公則・松島義章・大島光春・樽 創・「生命の星・地球」博物館古生物ボランティアグループ (2007) 横浜市南西部の上部更新統から見出された熱帯種タイワンシラトリ化石. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (36): 33-38.

成瀬 洋 (1952) 相模野台地東縁部の地質. 地質学雑誌, (58): 423-432.

解説 KPM-NP 55 は、下部に段丘礫層を含む。上部はいわゆるローム層にあたり、最上部は畑等に利用された地表付近となる。

KPM-NP 56 は、下部が藤沢泥層の泥質砂層にあたる。合弁のウラカガミを含む。上部には段丘礫 (俣野礫層) を含む。

KPM-NP 57 は、藤沢泥層の泥質砂層にあたる。泥質砂層の剥ぎ取り標本であるが、中部に明瞭な貝化石密集層 (ウラカガミ) を挟む。これは田口ほか (2007) の貝化石密集層 A 2 (Shell bed A2) であたる。

記録者 田口公則

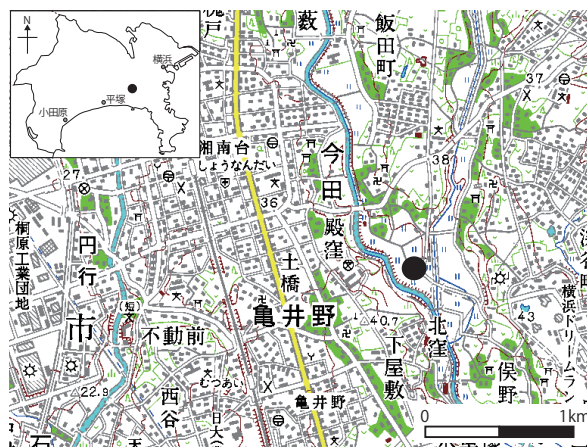


図 1c-10-5. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 1c-10-6. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP55, 56) の採集露頭 (上) と剥ぎ取った直後の標本 (下, NP55, 56 切り取り前)。



図 1c-10-7. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 57) の採集露頭 (中央の法面)。



図 Ic-10-8. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 55) の写真.



図 Ic-10-9. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 56) の写真.

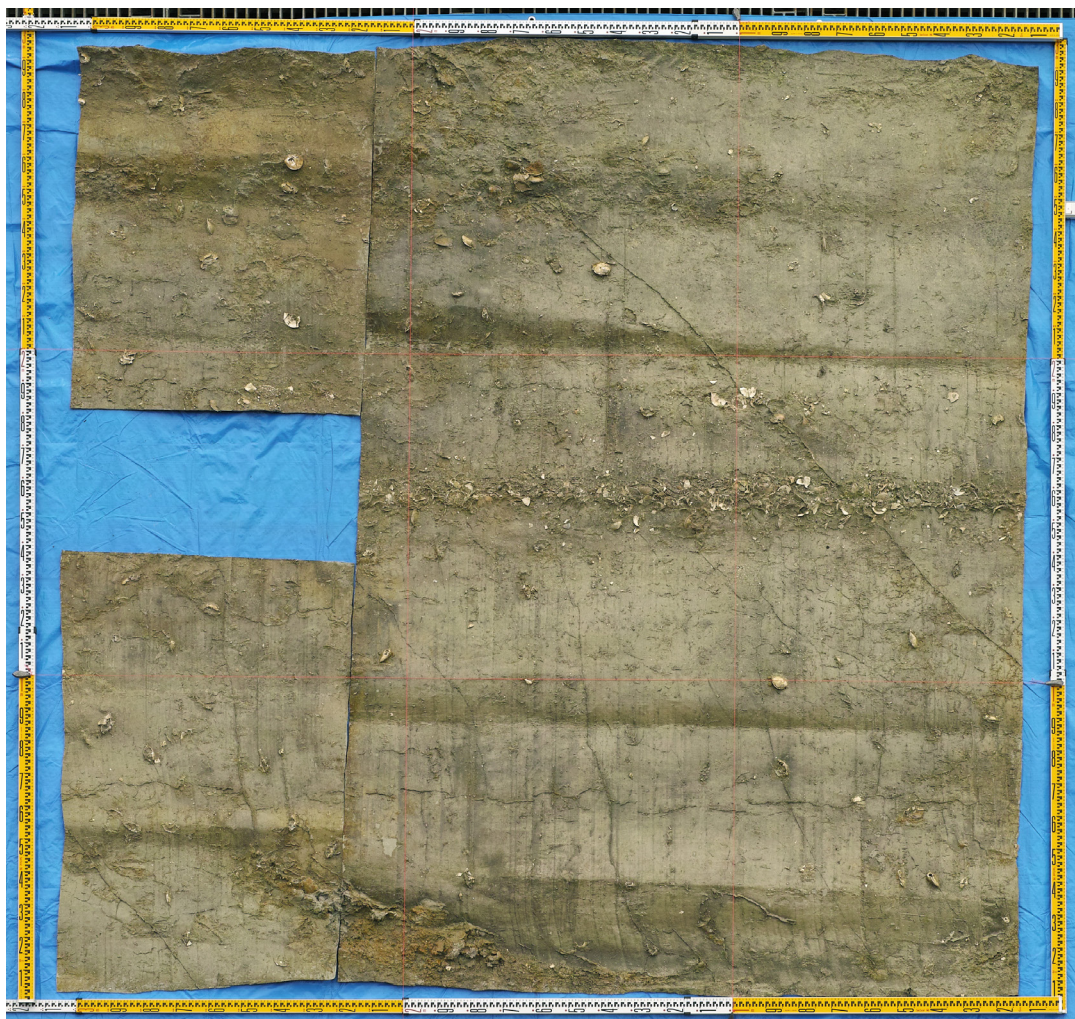


図 Ic-10-10. 剥ぎ取り標本の写真 (右 : KPM-NP 57-1, 左下 : KPM-NP 57-2, 左上 : KPM-NP 57-3).